

江戸時代の飛騨。安永の大原騒動に散った
若きリーダー・本郷村善九郎の清冽な青春を描く。

本郷村善九郎

◆原作／江馬修 ◆監修／林格男 ◆台本・演出／三島幸司

皆の衆よ！
おれたちが代官様と争うのは
納得のいかぬ検地に対して正義を持つてするのじゃで、
神様も仏さまも百姓に味方してくださることうけあいじゃ。
まず、この高原の山の中で戦いのノロシをあげよまいか。
そうすりゃ、飛騨の総百姓はあつちでもこつちでも
俺たちに続いて立ち上がる。
皆の衆、決心はいいかえ！

みずほ朗読の会 朋

岐阜県瑞穂市で2008年に結成。朗読の世界と演劇の世界を融合させた新しい舞台、朗読劇の上演を続けている。岐阜県の歴史を掘り起こし、岐阜が生んだ児童文学者・岸武雄先生の「千本松原」「炭焼きの辰」など地域に密着した作品を脚色・上演。今回の「本郷村善九郎」は「新島の飛騨んじい」に次いで飛騨を舞台にした2本目の作品になる。他に斎藤隆介、浅田次郎さん等の優れた文学作品を独自のスタイルで取り上げ、大人から子どもまで幅広いファンを持つ。



「本郷村善九郎」は 昨年岐阜県で開催された国民文化祭の一環として飛騨(高山市)で上演した作品です。すでに6年前に書き上げていた作品でしたが、作品のスケールが大きすぎて上演は不可能だと思っていました。公演の実現に向けて、出演者は朋のメンバーだけでは足りずいろいろお願いして岐阜の演劇仲間、高山の荘川村芝居「開明座」の皆さんが力を貸してくれました。これには本当に感謝しています。

さて、飛州高原郷をはじめ飛騨の人たちは善九郎のことが大好きです。誇りでもありません。家族を思い、仲間を思い、己を捨ててみんなのために立ち上がり戦った彼を今も強く愛しています。昨年の上演会場ではお客様のそんな思いが溢れ、演ずる者と客席の心が一つになった感動的な舞台に仕上がりました。

今回の岐阜公演では多少のメンバー変更はありますが、全員が飛騨公演と同様の心意気で臨みます。熱い舞台をどうぞご覧ください。
(朋代表 三島 幸司)

令和7年 10月26日(日) ぎふ清流文化プラザ
長良川ホール (岐阜市学園町 3-42)

第1回 11:00 開演 第2回 14:30 開演 (開場／開演30分前、公演時間／約100分)

主催／公益財団法人岐阜県教育文化財団

清流の国ぎふ創作朗読劇

本郷村善九郎

❖ 原作／江馬 修 ❖ 監修／林 格男 ❖ 台本・演出／三島 幸司

今から約250年前の江戸時代。時の代官大原彦四郎紹正が起こした騒動は明和、安永、天明の三年代、18年間断続的に起こった飛騨の壮大な百姓一揆の歴史である。このうち安永の騒動は、「幕命により80年前の元禄検地を見直し、新検地を実施する」という大原代官の申し渡しから始まった。元禄検地以来の古田畑は改めて検地しないとの約束で検地を受け入れた百姓たちであったが、新検地のやり方は極めて厳しく、しかも約束を破って古田畑まで検地の縄が入れたのである。古田畑は縄心をもって実際より2割程度狭く検地帳に記載されており、これを再検地するというのは農民の生活を脅かす極めて重大な問題であった。本郷村善九郎をはじめとする飛州高原郷から始まった抵抗の嵐はすべての飛騨の百姓達を巻き込み、飛騨一宮・水無神社に拠点を構え、1万人の大集会を実現させる。これは当時の飛騨の人口8万人の約8分の1である。ここからいよいよ代官との直接対決となり、17歳の若きリーダー・善九郎そして飛騨の農民たちは悲劇の結末を迎えることになる……。

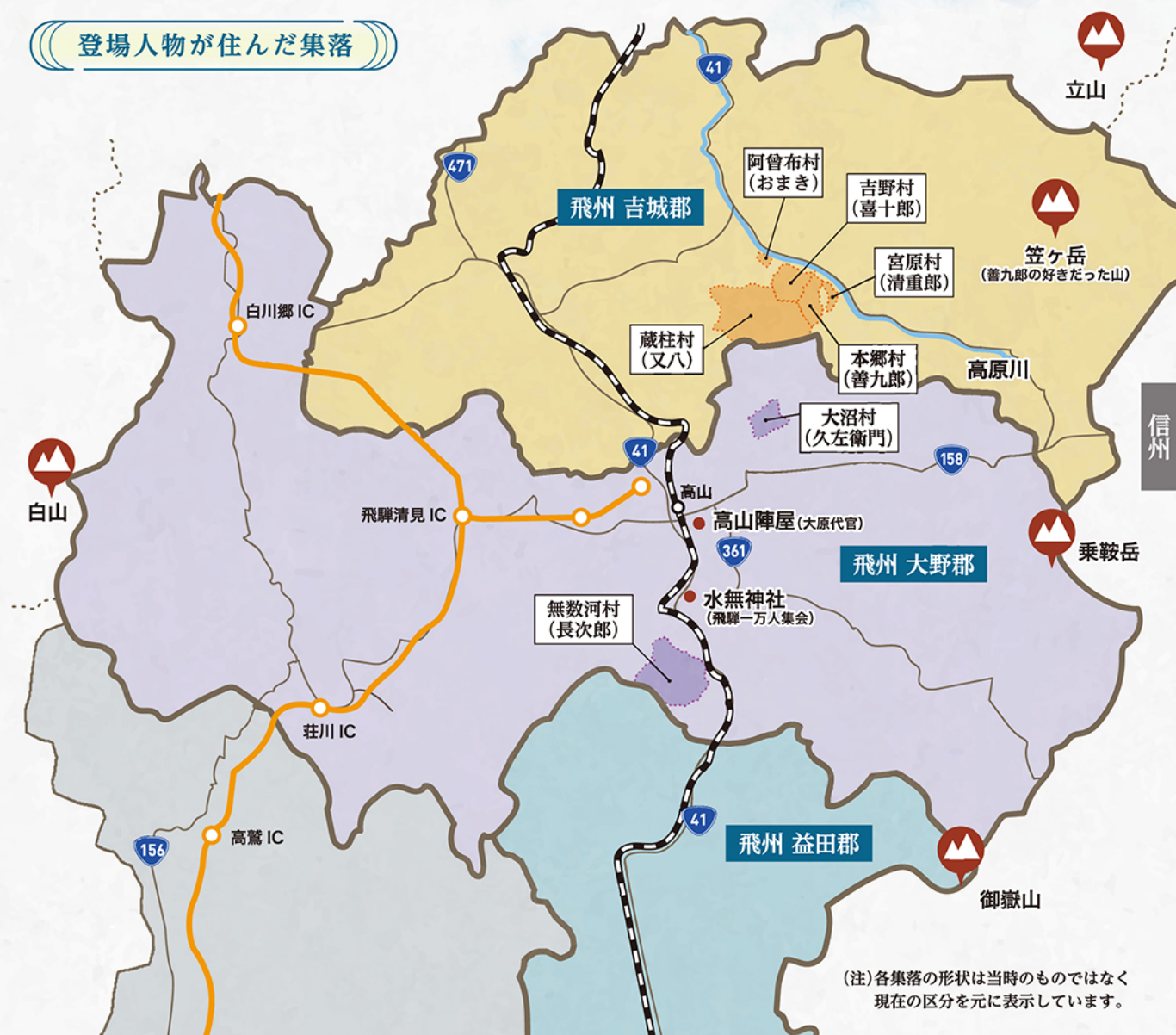
スタッフ

- ❖ 台本・演出……三島幸司
- ❖ 音響……関谷好一
- ❖ 照明……清水弘八、(株)総合舞台はぐるま
- ❖ 舞台装置……田路栄一、リトル、(株)総合舞台はぐるま
- ❖ スライド製作……深堀彰午、布施忠徳
- ❖ 衣装……みずほ朗読の会 朋
- ❖ 舞台監督……吉田洋二、亀井里栄
- ❖ 協力……円成寺、高山民謡保存会、上宝ふるさと歴史館、本覚寺、飛騨一宮水無神社

キャスト

- ❖ 本郷村善九郎……神田好将
- ❖ おかよ(妻)……森綾花
- ❖ 善左衛門(義父)……山口隆三(劇団ラッキー・キャッツ)
- ❖ おまき(祖母)……深澤紀子
- ❖ 宮原村清重郎……那須靖郁
- ❖ 吉野村喜十郎……深堀彰午
- ❖ 大沼村久左衛門……加藤正木(演劇theコウ)
- ❖ 蔵柱村又八……山内たま彦
- ❖ 飛州高原郷百姓……田路栄一、吉田洋二、中村師(演劇集団 紅茶組)、鈴木峻太(岐阜高専演劇部)、宇佐美勝史 他
- ❖ 無数河村長次郎……布施忠徳
- ❖ 名主・百姓……神山渉、日置和好 他
- ❖ 森伊勢……加藤正木
- ❖ 役人……柴田泉、中村師 他
- ❖ 大原代官……坪内恭史
- ❖ 老人……山内たま彦
- ❖ 老人の孫娘……亀井里栄
- ❖ ナレーション……後藤加代子、名和みどり、三島啓子

登場人物が住んだ集落



飛騨は広い。当時の飛州大野郡、吉城郡、益田郡、上の地図の北から南、東から西のすべての飛騨の百姓がこの騒動に関わった。善九郎の住んだ飛州高原郷(現高山市上宝町)が反抗ののろしをあげ、飛騨の南の百姓たちがこれに加わり、飛騨一宮・水無神社の大集会で心が一つになった。しかし、百姓たちはこの騒動の数年前、多発する百姓一揆を治めるため、幕府がこう公認したことを知らなかった。「百姓ども、取り鎮めがたき場合は、鉄砲大砲を用うことはやむ負えないものとする」。これにより百姓たちは大原代官の助けにかけつけた郡上藩の鉄砲・大砲に打ちのめされ、無残な敗北を喫することになる。

騒動の貢献者を悼んだ墓や供養塔、顕彰碑は飛騨のいたるところにある。飛騨の百姓のすべてを賭けて代官に立ち向かった証しである。一度訪れて見られたらどうだろう。